

【長崎県】 校務DX計画

1 これまでの取組

(1) 統合型校務支援システムの導入

教務系・学習系などの機能を統合した校務支援システムを全県立学校に導入している。

(2) メール、グループウェア、各種庶務事務システムの導入

県立学校の全教職員へメールアドレスを配布するとともに、学校間及び学校と教育庁間の連絡、スケジュール管理機能を備えたグループウェア、教員の休暇申請や出張申請、出退勤の打刻などを管理する各種庶務事務システムを全県立学校に導入している。

(3) 汎用クラウドツールの導入

県立学校の全教職員及び児童生徒に Microsoft 365 のアカウントを配布し、教職員間及び教職員と児童生徒・保護者との連絡やアンケート等でクラウドツール(Microsoft Teams 等)を活用している。

2 校務DX化チェックリストを踏まえた課題と今後の取組

(1) FAX・押印の原則廃止への取組み

学校間及び学校と教育庁間での文書通知や文書提出については原則電子メールやグループウェアにより行っている。今後も学校現場の実態を把握しつつ、電子化や押印廃止に向け、さらに取り組みを進めていく。

(2) クラウド環境を活用した校務DXの積極的な推進

メールシステムのクラウド化、校務処理での Microsoft Teams 等活用環境の改善等、クラウドサービスの更なる活用を推進していく。同時に、クラウドサービス利用に係る各種様式の規定や生成 AI の位置づけの明確化等、クラウドサービスの活用を前提としたセキュリティポリシーの見直しを随時行っていく。

(3) 今後の校務支援システムの在り方

現在、県立学校に導入している統合型校務支援システムはオンプレミス型であるが、今後はクラウドへの移行検討が必要と考えている。次期更新に向けて、校務系・学習系ネットワークの統合、学習系システムとのデータ連携による入力作業の更なる自動化等も視野に入れつつ、次世代の校務支援システムの在り方及びその実現に向けた段階的な移行について検討を進めていく。